

マイクロプラスチックの脅威

現在、マイクロプラスチックが海洋環境・海洋生物にもたらす脅威が世界中の識者達のみならず、生活者レベルで懸念されてきています。

マイクロプラスチックとは、きちんとした定義はなされていないようですが、主に5mm以下の小さなプラスチック片の事を指します。このマイクロプラスチックがもたらす脅威とは、海洋生物が摂取する事により消化器官等を詰まらせ死に至らしめるのみならず、マイクロプラスチックを摂取した海洋生物達の間で起こる食物連鎖により濃縮され続け、やがては我々人間の体内に取り込まれる恐れがあるということです。

この5mmに満たない、顕微鏡下でしか確認できないようなマイクロプラスチックは、性質の悪いことに海中のPCB等の有害化学物質を吸着してしまうのです。海中に漂いながら有害化学物質を吸着し、海洋生物に摂取されて濃縮され、やがて我々の食卓に…

プラスチックの有害化は世界中で起こっている



海岸漂着プラスチック中のPCBs濃度 (ng/g)

出展元：府中生活者ネットワーク「プラスチックによる海洋汚染のいま」報告

グラフの通り、日本近海でも決して楽観視出来ないレベルの PCB 濃度が観測されています。これらは主に、アジア近隣諸国から漂着されていると考えられています。

このマイクロプラスチックの発生原は、我々生活者の身近な所なのです。例えば洗顔料や歯磨き粉等に含まれる一次マイクロプラスチックと呼ばれるビーズ状のプラスチックや、二次マイクロプラスチックと呼ばれる食品の包装やレジ袋、廃棄家電の部材等が摩耗や紫外線の光分解によって小さな破片に。こうしたものが生活インフラに乗り、あるいは風に飛ばされ、雨に流され、海中に漂い始めます。研究では二次プラスチックの割合が圧倒的に多いそうです。

毎年、推定 800 万トンものプラスチックが海に流れ込んでいるようです。このペースで推移すると、2050 年には海洋のプラスチックの総質量が、全海洋に生息する魚達の総質量を上回るそうです。そして 99% の海鳥達がプラスチックを誤食するとも言われています。

現在、プラスチックの分解・処理については様々な企業・研究者により研究が進められています。近年ではプラスチックを食べるバクテリアや虫が発見されたり、効率の良い再利用方法が考案されています。

しかしながら、プラスチックの生産量も未だに増え続け、前述にもあるように毎年毎年、海洋にプラスチックは流出し続けています。マイクロプラスチックを海洋中から完全に除去する方法は現在無いようです。

こうして今まさにコラムを書いている机の上にも、プラスチック製品がたくさん乗っています。この子達はこの先一体どこに向かって行くのだろうか、考えてしまいました。

有限会社 本杉工機 杉山雅夫

負けるな!
エコ300くん
イ作: フジコイトウ



© 2018 フジコ イトウ All Rights Reserved.

REPAIR
FACTORY

(有)本杉工機

京都府久世郡久御山町田井新荒見 220 番地

tel : 0774-66-6254